

# 医療事故の撲滅で勉強会

筑西・古河地区医療安全推進委員会

筑西・古河地区医療安全推進委員会（高谷智子会長）の交流会が8日、城西病院で開かれました。

県西地区から10病院、26人の看護師や検査技師が参加し、病院の事故防止に向けての取り組みやリスクマネジメントなどについて、各病院の取り組みなどを交えて意見交換しました。

意見交換に先立ち、城西病院内の見学をしました。参加者は、タイなどへの医療支援など、国を超えた医療の取り組み、麻薬撲滅を狙いとしたドイツン・プロジェクトを手助けするコーヒーショップの運営などに興味を示していました。また、医療用の物資の管理や医療廃棄物の管理などについても熱心に質問していました。

交流会では、患者影響度レベルに分けた報告書の作成で、アクシデント（事故）と事故手前のインシデントをどのように区分すればいいのか、注射針などを誤って自分の手に刺してしまう「ハリ刺し」などヒヤリ・ハットのケースも挙げて、将来の重大事故の未然防止に備えているなどの意見も出されました。

電子カルテに移行する中で、「患者さんの検査結果をすぐに把握することができない」という問題点も指摘。

「パニック値を決め、検査値が上回ると直接連絡を受け、患者さんにも再検査を促す。そうした仕組みを作ることが大切」などの事例も話し合われました。また、患者さんの転倒や転落防止に対し、「患者さんに対する共通理解を図ることで、防ぐことができました」という事例も発表されました。

情報化が進む中で、フェースブックやツイッターなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）も議論されました。「学生間でSNSで連絡を取り合っ

たりしているが、何気なく撮影した病院の写真が流れるケースもあった。ガイドラインが必要」という意見も出されました。  
平成26年11月10日

